

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | |
|------|-------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | 930T | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル |
| RG | 2.480 | △RG | 0.056 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール | |

テストボール：930T

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4 インチ

番

研磨剤

比較対照ボール：RISING Particle

フレアーの幅 インチ

表面加工

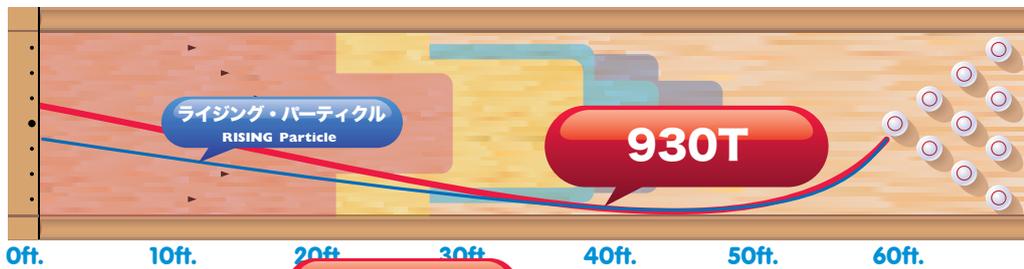
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

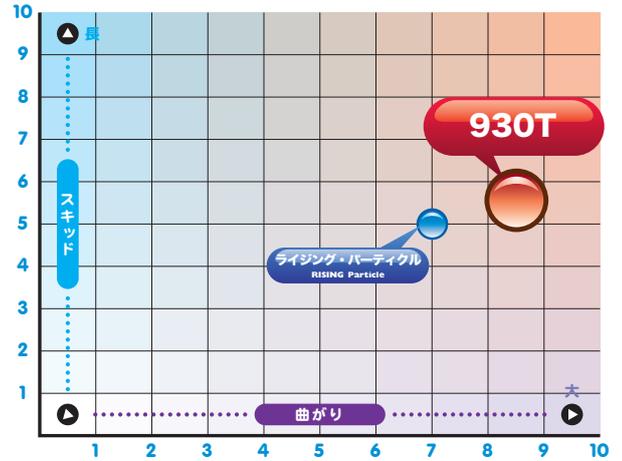
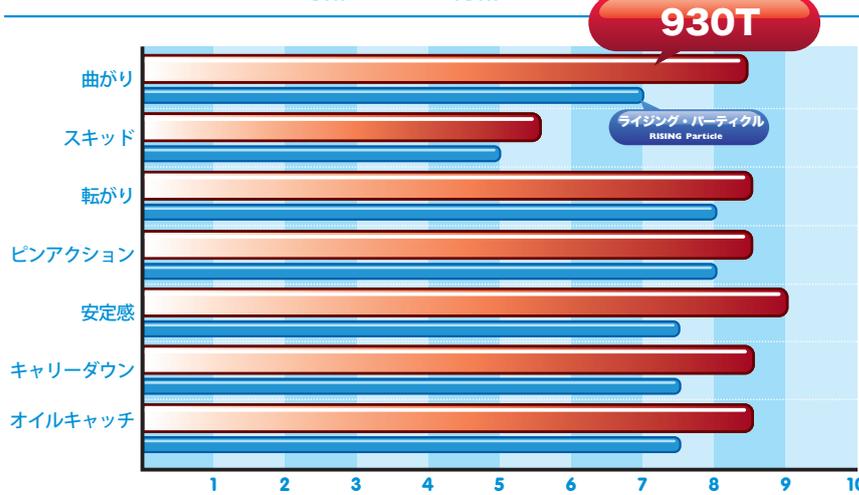
4 1/2 インチ

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

トラック社新たな試み。性能を番号表記にしそのままボール名とすることで詳細なスペックを分かり易くすること。505C、715Aが発表され、今月3つのスペックでは最もHigh-performanceのボール930Tの発売です。

”9”の頭文字がもつHigh-performance、下二ケタ”30”はマスバイアス・ディファレンシャル(マスバイアス差異0.030)を表し、最後尾”T”はTractionの性能です。

この930Tの注目すべき点はやはり”9”がもつHigh-performanceのカバーストック性能と”T”のTractionの性能とのマッチングと言えるでしょう。通常カバーストックを強くし、尚且つTractionの性能を求めると回転効率には手前に傾き、曲がり始めだけが重要視され、なかなかバックエンドまでバランスは取りづらいものです。しかし今回トラック社はカバーストック性能はHigh-performanceを保ち、”T”というTractionをイメージさせるフック移行、バックエンドでフリクション感のある”柔らかく切れる”イメージをも同時に実現させているのです。しかももう一つ注目すべき点はマスバイアス差異を0.030と強めに設定し、フック移行を早めながらこのバックエンドリアクションを同時に兼ね備えることは高度な技術とトラック社開発の奥深さを感じます。早めのコンディションで何を一番重要視するかと言えば「曲がり始めのイメージ」でしょう。その曲がり始めが見え、曲がるというイメージが持てるボールならばそれはオイルが多いコンディションで投げられるボールであることを示し、安心して自分のボウリングに徹することが出来るのではないのでしょうか。トラック社”9”のカバーの強さと”T”Tractionの性能のバランスの取れたリアクションを感じる時がきたのです。

特記事項

カバーストックの強さ”9”と”T”Tractionの性能が如何なく発揮されており、ヘビーなオイルにも対応。曲がり始めのイメージ、バックエンドリアクションが非常に安定していて安心してラインを攻めることができます。